

外国語活動・外国語

外国語活動・外国語科では、英語によるコミュニケーションを図る素地・基礎となる資質・能力の育成に向け、目的や場面、状況等を設定し、実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実を図ることが大切です。

外国語活動・外国語科の授業づくりのポイント

- 「CAN-DO リスト形式」による学習到達目標の設定及び評価の明確化
- 児童が思考を働かせ、考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実
- 児童一人一人の学習状況に応じた ICT の効果的な活用

□ 「CAN-DO リスト形式」による学習到達目標の設定及び評価の明確化

外国語科では、各学校における児童の発達の段階を踏まえ、領域別の学年ごとの「CAN-DO リスト形式」による学習到達目標（以下 CAN-DO リスト）を定める必要があります。

単元を構想する際は、学年ごとの目標を踏まえ、単元ごとの目標及び評価規準を単元を中心となる言語活動に即して設定します。

CAN-DO リストは校内で共有し、定期的に見直し、改善を図ることが大切です。学級担任や外国語担当の教員だけでなく、複数の教職員で見直しを図ることで、校内で共通理解が図られ、系統的な外国語の指導につながります。

CAN-DO リストや評価についてもっと知りたい
⇒「Can-Do 形式の学習到達目標作成とその活用」
YouTube nextchannel



学年の CAN-DO リスト

「話すこと（やりとり）」における第5学年の目標
日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができる。

単元の CAN-DO リスト

単元の目標
互いのことをよく知るために、誕生日や好きなもの、好きな季節などについて、具体的な情報を伝え合うことができる。

単元の評価規準（「話すこと（やりとり）」の評価規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 月日や季節の言い方や、 When is your birthday? What ~ do you like? その答え方などについて理解している。 ・ 誕生日や好きなものなどについて、 When is your birthday? What ~ do you like? 等の表現を用いて考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。	互いのことをよく知るために、誕生日や好きなものなどについて、具体的な情報を伝え合っている。	互いのことをよく知るために、誕生日や好きなものなどについて、具体的な情報を伝え合おうとしている。

言語活動

単元を通して取り組む言語活動
・ 月日を尋ねたり答えたりするとともに、友達と好きな季節について伝え合う活動
・ お互いのことをよく知ることができるよう、誕生日や好きなものなどが分かるポスターを作成する活動

単元の CAN-DO を評価 (CAN-DO の達成状況を把握)

パフォーマンステスト

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を参考に作成

□ 児童が思考を働かせ、考えや気持ちを伝え合う言語活動の充実

外国語教育は、児童が、目的を達成するために英語を使用し、間違いと修正を繰り返しながら理解を深め、活用できるよう、「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う活動」である言語活動を充実させることが求められています。

言語活動は、児童が、「話したい」「何をどう話そうか」と感じることができるよう、**コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を設定**することが不可欠です。題材については、児童が興味・関心を持ち、身近で具体的なものにすることが望ましいです。

【言語活動に必要な4つの要素】

- ① 伝え合う目的や必然性がある。
- ② 相手意識をもって取り組むことができる。
- ③ 実際に自分や相手の気持ちや考えを伝え合う「本物」のコミュニケーションである。
- ④ 伝え合うことの喜びや意義を見出すことができる。

言語活動についてもっと知りたい
⇒なるほど！小学校外国語①
YouTube nextchannel



□ 児童一人一人の学習状況に応じた ICT の効果的な活用

言語活動において、写真やイラスト、映像を活用して自分の思いや考えを伝える、教科書の音声を繰り返し聞いたり、録音した自身の音声を確認したりするなど、**児童が自身の学習状況に応じて学習方法を選択し、効果的に1人1台端末等のICTを活用**することが大切です。

デジタル教科書についてもっと知りたい
⇒学習者用デジタル教科書の活用による指導力向上ガイドブック



<活動の流れ(例)>

導入（一斉）

大型提示装置に投影したデジタル教科書の地図を基に説明し、本時の見直しをもつ。

展開（個人）

各自でデジタル教科書や関連するデジタル教材を活用し、本時の目標を見通しながら、既習の語彙や表現の発音等を確認する。

展開（ペア）

各自が持つ「目的カード」をもとに、相手の必要に応じた目的地にたどり着く道案内をし合う。

※分からないときはデジタル教科書を参照

まとめ（個別）

本時の活動から学んだことについて、各自で振り返りを行う。